

インターバンクの声（2016 年 12 月 20 日）

昨日、週明け東京市場の円相場は目立った材料もなく、持ち高調整を中心にしたドル売りが夕方まで続き、4日ぶりに116円台まで円高が進んだ。ロンドン勢参入後すぐに117円台に戻したが、ニューヨーク市場ではイエレン米連邦準備制度理事会（FRB）が労働市場の健全性をボルティモア大学の卒業生に向けたスピーチの後にドルが反発するまでは、一時116円50銭台までドル売りが進んでいた。

先週の米連邦公開市場委員会（FOMC）で2017年の利上げ回数見通しがそれまでの年2回から3回へ上方修正され、同日一気に119円台を目指しそうに見えたほどドル買いの勢いが強かったが、クリスマス休暇が近づくにつれて参加者が減ってきており、大きな変動は今月最終週まで持ち越されそう。

社内のチーフ・ディーラーの「調整のドル売りよりもドルを買う人がほとんどいない」との一言が昨日の円相場の展開を言い表していた。米長期金利の低下がもう一段進めばドルの上値がさらに重くなりそうだが、今日の日中の注目は黒田日銀総裁の会見での発言になりそう。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。